

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム こうえい館	評価実施年月日	2008年2月21日
評価実施構成員氏名	西野 山口 柚原 山本 佐伯 太田 高橋 小澤		
記録者氏名	江上 かおり	記録年月日	2008年2月21日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域の子供達とのあいさつや、ふれあいが大好きな方、地域の方のお庭を見て回る事が大好きな方、等様々である。それぞれのその人らしくを見つめ、その人らしく生きる事を理念に掲げ、取り組んでいる。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念の内容について、勉強会で話し合うなどして理解に努め、暗記し、日々のケアの中で実現に向けての取り組みをしている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念を玄関に掲示し、家族には入居時等に説明を行い、運営推進会議でも地域の方々に説明している。	認知症理解のための介護教室の開催を予定しており、地域の方々に理解を得てもらえる様取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時、近所の方のお庭等を見せて頂いたり、館前の歩道を通る子供達とあいさつを交わしたりしている。又、回覧板の受け渡し時にも、入居者さんも関わり親しくさせて頂いている。	近隣への散歩を通し、言葉を交わしながら顔見知りの方を増やしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会費を払い、町内会に入会しており、班会議に管理者が出席し、町内においての可能な活動を話し合った。又、近隣の小学校の盆踊りに参加したり、中学生の職場体験学習を受け入れたりと等、地域との関わりを持っている。	町内会の中で、班長やその他の役割を担っていく予定である。又、町内の地域行事に、入居者さんと共にできる限り参加するよう町内会長さんとも話し合っているため、実現していきたい。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	認知症サポーターキャラバンメイトの研修を受けて資格を持った職員を中心に、地域の方対象に、認知症サポーター養成講座の開催予定である。	地域の方に認知症の理解が深まることにより、地域の高齢者にとって住みよい街となることを願い、活動していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見、不満、苦情は受けとり、話し合いを行い、解決に努めている。</p>		
<p>家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎月、館だよりを発行し、行事、様子、暮らしぶりなど伝えている。又、家族が来館の際は、管理者や職員から、最近の出来事、認知症状や健康状態等についての会話に努めている。又、発熱や怪我、主治医からの指示などあれば、随時キーパーソンに連絡し、報告、相談等行っている。</p>		
<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族から意見、不満、苦情等があれば、話し合いの機会を作り受け入れている。</p>		
<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者が職員の意見提案を聞き、定期的な会議などで運営者に伝える機会が設けられている。</p>		
<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>勤務シフトには、毎日待機者が組み込まれており、天候に合わせた外出行事等、必要が生じたとき人員確保ができる。</p>		
<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>ユニット間の職員異動はほとんど無いが、昨年管理者が変わって、職員1名移動、新人1名増えた。それまでの馴染みの職員を中心に新職員も早く入居者さんと親しくなろうと努力しており、ダメージを与える異動では無かった。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部の研修に積極的に参加し、月1回の勉強会にて、研修で学んだことをスタッフ同士で共有し、演習も行っている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>研修に参加した際、他のグループホームの方と会話を持つ機会は多いが、職員同士の自由な相互訪問の活動はしていない。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>狭いが、休憩がゆっくりとれる場所がある。又、観桜会や忘年会において職員相互の親睦、交流の場になり、ストレス軽減に繋がっている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、向上心につながるよう努めている。又、資格に応じて昇給もある。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に訪問して聞き取りを実施したり、見学に来ていただいて更に十分なアセスメントを行い、状況を受け止め対応できるようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前十分な聞き取りを行い、困っていること、不安なこと、求めていることの把握に努めている。又、入居間もない頃には、生活の様子をお伝えする等の会話を多く持ち、不安感の軽減に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人にとって、よりよい支援は何なのかを、ご家族の方と相談、話し合いを進める中で見つける様努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居は、ご家族のみの意志で決めるのではなく、必ずご本人の来館見学をお願いしている。ご本人にも納得頂けるようお話しさせて頂いたり、希望があれば、見学は1度のみではなく、職員とも触れ合う機会も持てるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者さんと、庭仕事や家事等、生活全般において助け合い、良い関係を築きながら一緒に過ごし、支えあっている。過去の苦労話や生活の知恵、人としての関り方や、感謝の気持ちを持つ等、人生の先輩として私ども職員が学ぶことは多々あり、傾聴を心がけている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人に何か困ったことが起きた時や、問題が発生した時は、連絡を取り合い、話し合い共に考え、協力しながら解決に向け、支えあっている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居者さんは、ご家族の方々と外出、外食、帰宅、通院等、それぞれの状況、都合、認知度に合わせ、自由に行っていられ関わり合っただけにしている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	希望があれば、馴染みの場所に出かけたり、入居前の親しいご近所の方々が来館されたり、思いに沿った関係を維持できるよう、支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	家事仕事、買い物、外出、レクリエーション、手指作業等、関わり合える機会を作り、入居者さん同志の関係がより良いものになるように工夫している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院退去となったご家族の方が、親しい入居者さんや、職員に会いに来て下さる方もいらっしゃり、快く接している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者さんとの会話ややり取りの中から探ったり、希望、要望等がないか声掛けしたり、希望がある時には伝えて頂き易いような雰囲気作りに努めている。又、意向を表せない方は、家族の方の聞き取りや、表情、行動などから推察しながら探っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	以前サービス利用のあった方には、その担当の方から情報を頂いたり、家族の方から等も出来る限り情報を提供して頂いている。又、ご本人との会話や行動からも把握できるよう努めている。アセスメントした内容は、センター方式ABCシートに記録を取っている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の様子を観察し記録することで、細かい変化等も見逃さないように努めている。アセスメントシートのセンター方式CDEに記録を取り、思いや、出来る事出来ない事を探ったり、困っている事や必要な事が何なのかを、検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎日の申し送り時に、課題や問題点を話し合ったり、月に1度のカンファレンスで介護計画の評価を行い、3か月に1度、ご家族の方からも意見、要望をお聞きしたりしながら、介護支援専門員と共に計画の見直しをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間は三カ月だが、変化の急激な方、退院等で状況が変わった方等には、職員全員で現状把握に努め、介護支援専門員と共に、家族の意向、専門家の意見も伺いながら、心身の状況に応じた必要な支援を行えるよう努めている。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに沿った支援を行い、その内容を個別に日誌に記録している。新たな発見や気づきを記録し、次の支援に生かすよう工夫、努力している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	事業所として、ご家族やご本人の求めや希望に応じ、その方が安心して生活を送って頂けるよう複数ある車両を利用し外出支援を行ったり、職員が個人対応を行い一緒に喫茶店での憩いの時間を行う事などを心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近隣中学校の体験学習の受入れ、地域の方のボランティアの受け入れ、消防署の協力を得ての避難訓練、通報訓練をおこなっている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要性に応じ他のサービス利用の支援を行っている。現在は歯科衛生士による口腔ケアを受けている方がおられる。地域内や近隣のケアマネージャーやサービス事業者との話し合いの場はないが、入居者さんの認定調査に来られたケアマネさんとは、少しお話が出来る。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	入居者ご本人ではなく、その方の高齢の配偶者(キーパーソン)の件で地域包括支援センターに相談、協働している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	法人と提携している医療機関を利用し、往診を受けている方と、入居前からのかかりつけ医を利用されている方がおられ、状況に応じた受診支援や相談を行っている。又、医療連携の看護師との係わりが現在8か月となり、9人全員の様子を把握して頂けて、身体面に関するケアに役立っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	入居者さんの状態等の観察を行い、かかりつけ医に相談している。しかし未だ市内の対応して頂ける認知症専門医との関係は築けていない。		入居者さんの認知症状の状態によっては、認知症専門医やサポート医との良い関係も築いていきたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	昨年6月より週1度の医療連携ケアが始まり、事業所と契約している看護師より日常の健康管理や医学的なアドバイスも受ける事が出来ている。又、入居者さんの古くからのかかりつけ医院で働く看護師とも、日常気をつける点などについて、親身に相談に乗ってくれている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	ご家族と共に病状や治療計画などの説明を受けたり、グループホームでの生活状態を入院先の担当看護師に伝えるなどして、安心して入院して頂き、入院中の状態の変化なども教えて頂き、退院後の相談も連携しており入退院全体を通し、連絡を密にとる事を心掛けている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	状況に応じ、ご家族との話し合いを行っており、医学的な状態の変化や、検査の必要性などについても、伝え合っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	体調変化や重度化した場合には、かかりつけ医や看護師と共に支援に取り組んでいるが、終末期のケアの経験は少ない。		個々のケースに応じ、ご本人やご家族の方の望む終末期ケアを考えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>話し合いや情報交換で、不安や戸惑いを最小限に抑えられるよう考慮している。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>トイレの確認は小声で行い他の方に聞こえないよう配慮している。失敗や失禁等は他の方の目に入らぬ様素早い対応を心掛けている。又、他者との関わりを日誌に記録する際は、相手の方をイニシャルで表記する等、プライバシーや個人情報を守る取り組みを行っている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>行っている。例えば食事メニューに入居者の方の希望を取り入れるよう配慮したり、日々の会話の中での質問はその方の理解力に合わせて行い、自己決定して頂けるよう努めている等である。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>買い物や外出の希望があった場合には、体調や天候に配慮し対応している。計画的な外出よりも、その日その時の求めの希望に沿っての外出の支援が多い。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご家族と行きつけの美容室に行かれる方、ご家族が来館時にカットや顔そりをされる方、希望者には美容師の資格を持った職員による整髪も行われている。過去の生活歴のアセスメントもふまえ、持参の化粧品によるおしゃれの支援もしている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>献立作りに参加して頂いたり、食事の準備、後片付け等を職員と共にし、入居者の方の認知度や理解力に応じて支援している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>歩ける方は、おこずかいを持って近くのスーパーに出かけ、好みの食材やおやつを選び楽しんでいる。意向を表せない方や外出困難な方は、日常の様子を観察や会話の中から好みを探り、提供を心掛けている。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄表を付けており、一人一人の排泄確認が出来る様になっている。時間を見てのトイレ誘導や、尿意や便意を行動からの推察によるトイレ誘導を試みるなどの、排泄援助を行っている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>基本的には月曜日と木曜日に入浴しているが、状況や希望によりいつでも入浴を楽しめるよう配慮しているが、体力の低下や倦怠感により、入浴拒否も増えてきており、声掛けに工夫している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>不安など見られる場合は、一緒に付き添うなどして安心して休んで頂けるように、配慮している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>冬場は雪かき、夏場は庭作業、過去の生活歴に応じ、包丁磨ぎ、そば作り、漬け物作りや料理、花や野菜の世話等、ご本人が行いたいことが出来るよう援助している。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>事務所でおこずかいを管理しているが、希望により、近くのスーパー等買い物に出かけ、ご本人の手により、支払されている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外出したいと自ら意思を表せる方にはもちろん、意思を表す事が困難な方にも、表情や行動を見極めながら、希望や状態に応じ、散歩や外出を支援している。あらかじめ予定された外出より、その日の気分、天気、状況に合わせた外出の方が多い。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	希望に応じ皆さんと一緒に、動物園やどんどこ焼き、個別対応で職員と2人で喫茶店へ、ご家族の方と買い物、外食、帰宅等、思いを探りながら支援を行っている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	遠方のご家族から物品が届いたとき、必要な物が欲しい時、事務所の電話をいつでも掛けられるようになっている。又、身内の方に連絡したい気分、家に帰りたい気分の時等、不安な気持ちになった時も、家族の了解のもと落ち着ける対応の一つとして、電話かけを援助している。年賀状、絵手紙等の手紙のやり取りも自由に出来る様支援している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問して頂けるよう雰囲気作りや接遇にも配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていない。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	一部危険な場所と夜間を除いて、施錠はしていない。弊害を理解した上で、職員がしっかり見守りすることで、開放的に過ごして頂けるよう配慮し、取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中職員は入居者さんの行動などに目を配り、声を掛け合ったりしながら見守り、安全に配慮している。夜間は時間を決めての巡回の他に、状況状態に応じ、こまめに様子確認を行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ナイフ、鋏、裁縫道具等はお預かりをして、必要に応じて職員が見守りながら使用して頂いたり、入居者さんの状態に合わせた対応をしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止のための知識を高め、シミュレーションや訓練を行っている。昨年は玄関ドアの改装があったので、転倒防止に手すり設置、行方不明防止に玄関ドア開けた時のチャイム、嚔下状態の悪い方には調理形態の工夫、館全体のハザードマップの作成等で取り組んでいる		事故が起こった時や、事故には至らないが危なかった時等、原因や要因を探り再発防止を、特に心がけていきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	月1回の勉強会で、医師による、介護者として必要な医療知識の講義を受けたり、救命救急講習の消防隊員を招いて救急時の心肺蘇生法等を訓練したり、高齢者介護の緊急事態マニュアルの本で学習したりしている。		今後も引きつづき、一人一人個別な病気の変化や急変に対応できるよう、学んでいきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時の避難訓練を入居者さんと共に行っているが、回数が少ない。		避難訓練を年3回は行い、地域の人々への働きかけを、町内会活動に参加していきながら取り組み、協力を得られるよう考えていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	心肺機能や上下筋力の低下などによる病気の進行や転倒の危険性、嚔下、咀嚼機能低下による誤嚔性肺炎等起こりうるかもしれない事柄についてご家族と話し合いを重ねている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎日、厨房やまな板などの消毒を行い、台所回りの衛生に努めている。又、毎日、食材購入に行き、新鮮な物、安全な物、賞味期限消費期限に気を配っている。入居者さんが残食し、後で食べたいと言われた場合は、冷蔵庫保管で早めに摂って頂くか、説明し、理解して頂いている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関周りに花を飾ったり、クリスマス、正月等の飾り付けを施し、季節の話題などにより和みの空間作りを目指している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビングに花を飾ったり、廊下に写真を展示したり、窓のブラインドで光を調節したり、住環境に配慮している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングには、ゆったりくつろげるソファがあり、家庭的な雰囲気が入居者さん同士話をしたり、体操を行ったり、自由にされている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時、ご本人の馴染みの家具や道具、電気製品を持ってこられ、使用している。壁には地図や写真等懐かしい思い出のものを並べ、和みや、心地良さを感じて頂いている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>個人の発汗状態や寒暖の感じ方の違いや体調を考慮し、室温調節を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

過去の生活歴のアセスメントを踏まえ、家事や園芸、外出や買い物など思いやできる力を考慮して援助を行っている。  
その人のありのままの姿を捉え、その日、その時、その瞬間の喜びや心地よさを感じていただけるケアを今後も提供していきたい。